

2018 年度 認定留学 留学報告書

国際交流学科 3 年

留学先：アメリカ カリフォルニア州立大学フラトン校

留学期間：2018 年 8 月～2019 年 5 月

今回の留学では、本当に様々な貴重な経験ができた。授業面では、生徒が本当に学びたくてこの授業を取っている、というのがひしひしと伝わってきた。皆積極的に発言するのが当たり前、授業に参加していることを楽しんでいる様子だった。本来あるべき学生の姿を見たような気がして、自分のやる気にも繋がった。一方的な授業ではなく生徒に考えさせることを重視しており、生徒が意見を交わすことで、様々な考え方や価値観を知ることができた。毎週のように課題が出て、プレゼンテーションをしたり、ディスカッションをしたりと、初めのうちは授業についていくことに必死だった。しかし、毎回授業を録音して何度も再生してないよう理解に努め、授業後やオフィスアワーに教授に質問をしに行ったり、レポートの提出前には事前に友達や先生に添削してもらおうなど、自分なりに努力し工夫した。現地の学生と大学の授業を受けることで、英語力だけではなく、留学をしなかったらできなかった、感じられなかった経験をたくさん得ることができた。

また、日常生活でも充実した日々を送ることができた。留学当初、寮生活をおくる際、ルームメイトが 4 人とも日本人だった。自分を常に英語を話す環境に置きたかったので、ルームメイトを変えてもらえるよう直接担当の方に交渉しに行った。結局寮を変えてもらうのに 2 ヶ月かかったが、その後はアメリカ人 2 人とペルー人の正規留学生と生活していた。この寮になったのは本当に偶然だったのだが、ペルーのことはもともと友達で、さらにアメリカに 3 年次用住んでいるので英語も流暢で、寮が変わったとともに私の英語力は伸びたことを実感することができた。毎日ご飯を一緒に食べ、一緒に学び、約 2 ヶ月間ほぼ毎日一緒に過ごしていた。そしてなにより、生まれた国、育った環境は違うのにも関わらず、考え方や価値観がとても似ていた、彼女と過ごした 2 ヶ月間はかけがえのない時間であった。

これらの経験を通して今回の留学で学んだことは、自分の意思や行動次第で状況はいくらでも変えられるということだ。寮を変える前はなるべく部屋には帰らず、友達の部屋に遊びに行ったり、積極的にイベントに参加したりしていた。もちろん、日本人と暮らすことはメリットもたくさんあるが、やはり自分が留学をしにきた目的を思い出すと、直接何度も交渉しに行ってもよかったと思える。実際に寮を変えたことで私の留学生活は充実度がまし、英語力も伸びた。また、一学期間アメリカで過ごしたことによって、現地の生活に触れることもできた。年齢、人種に関係なく様々な人とかかわったことは貴重な経験となった。